

第4回放課後対策事業運営委員会 会議概要（議事録）

- 日 時 平成28年2月25日（木） 午前9時30分から午前11時30分
- 場 所 我孫子市教育委員会 4階 大会議室
- 出席者
委 員 長谷川敬一（委員長）、飯尾弘子（副委員長代理）、北原靖子、佐藤哲康、
小谷愛子、有馬ちえみ、坂手千代子、浦島誠、山口裕子、上野茂、平八重敬子、
池上真千子、鈴木幸子、小林加代、増田建男、鈴木与志美
事務局 コーディネーター：古高すま子、並内千緒、野原明美、河村千春、森井貴美子、
大野敦子、飯塚章江
子ども支援課：相良輝美、町田育代、萩原誠経

●事前説明

- * 議事録作成のための録音許可について
- * 傍聴要領の承認について
- * 資料確認

1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について
 - (1) 我孫子第二小学校の運営について
 - (2) 高野山小学校の運営について
 - (3) 我孫子第四小学校の運営について
 - (4) 湖北台西小学校の運営について
2. 放課後対策事業の進捗状況について
 - (1) スタッフ研修の報告について
 - (2) 療育・教育システム連絡会における検討報告
 - (3) 小学生の放課後支援について
3. 一小あびっ子クラブにおけるDVD発表について
4. 来年度の運営委員会について

公開／非公開：公開

傍聴人：無

●会議概要（要約）

【開 会】

- ・ 議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいか。[異論なし]
- ・ 異論がありませんので、「傍聴要領」に沿って、傍聴人の手続きを行わせていただきます。本日は、傍聴人の届け出はありません。

1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

(1) 我孫子第二小学校の運営について

(委員長) まず一点目、あびっ子クラブ及び学童保育室の運営についてです。

我孫子第二小学校の運営について、二小あびっ子クラブコーディネーターお願いします。

(事務局) 二小のお話をさせていただきます。

先日 2 月 5 日にラグーマンが確定申告体験に来ました。産経新聞にも掲載されましたが、確定申告体験を終えた後、NECのグリーンロケットの選手たちが子どもたちに向けてラグビー教室を開催してくれました。当初は1・2年生対象としていましたが、開始時間が遅れたため、3年生以上も参加することができ、全部で80名位の児童が参加できました。最初に4つのグループにわかれてパスの練習、その後トライとタックルの練習を選手と一緒に行いました。サッカーはするけどラグビーをするのは初めての子どもがほとんどで、とても楽しそうに体を動かしていました。選手からは参加賞として子どもたちに自由帳をもらい、学校、学童保育室、あびっ子クラブにそれぞれ色紙にサインを頂きましたので、お部屋に飾っています。

学童では、今はけん玉とコマ回しがとても流行っています。沢山の子どもたちのコマ回しが上達し、けん玉も「もしもしかめよ」に合わせて出来るくらい上達しています。毎日子どもたちといいますが、いつ練習したのというくらい上達し、子どもたちの伸びる力に驚きを感じています。スタッフも子どもたちに負けないように練習中です。

あびっ子クラブでは11月～1月まで日暮れが早いため、閉室が16時半まででしたが、2月から17時までとなりました。そのため、5・6年生の参加も増えあびっ子も賑やかさが戻ってきました。最後に、前回の運営委員会で、二小のあびっ子クラブが二階にあるため、一階の入口が開いたままで防犯上課題があり、検討中という報告をさせていただきましたが、早速、市でインターホンを付けていただき、鍵は閉めたままにし、子どもたちがきたらインターホンを押してもらいスタッフが開けに行くという形になりました。私たちスタッフも安心して毎日過ごせています。

(委員長) ありがとうございます。今の報告で何か質問ございますか。

よろしいでしょうか。

続きまして、高野山小学校の運営についてお願いします。

(2) 高野山小学校の運営について

(事務局) 高野山小あびっ子と学童の様子をお話します。あびっ子クラブは1年生から3

年生を中心に、割と決まった子が来ているなという印象です。サポーターさんの囲碁やけん玉の他に、自分たちで工作などのチャレンジをしているので、とても楽しみにしてきています。学童現在児童数が第一 33 名、第二 31 名となっており、とても落ち着いた毎日を過ごしています。学童には中庭があり、児童はそこで遊びますが、校庭で遊びたい子たちはおやつを食べてからあびっ子にきます。クラスの友だちと「あびっ子で遊ぼう」という約束をしてくる子もいます。学童の子は、今まで学童にいる間は学童以外の子と遊べませんでした。あびっ子があることにより今では他の友だちと遊ぶことができるのだと感じています。土曜日はあびっ子・学童共に利用人数が少なく、あびっ子の部屋で合同保育をしています。悩みの一つにトイレのことがあります。普通教室のある校舎のトイレはきれいになったのですが、あびっ子のある特別教室校舎のトイレは、昔ながらのトイレで一年生が使うのに怖がっています。最後に、今週月曜日に爆破予告騒ぎがあり、当日急にあびっ子が閉室となりました。その日、一年生の子に会うと、「どうしてあびっ子が無いのか、お母さんが仕事で出かけているのに」とたずねられたので、校長先生の所へ一緒に行き、相談しました。このようなことがあり、あびっ子クラブを学童の様に使っている子がいるのだと再認識しました。以上です。

(委員長) ありがとうございます。ただ今の報告で何か質問ございますか。
よろしいでしょうか。
続きまして、我孫子第四小学校の運営についてお願いします。

(3) 我孫子第四小学校の運営について

(事務局) あびっ子クラブもオープンして半年近くになりましたが、今年に入り利用人数も落ち着いて減ってきました。普段は低学年の利用が多いのですが、2 月になり閉室時間が 17 時に戻ったので、高学年の子がたまに顔を見せにきます。四小はあびっ子と学童の部屋が離れていますので、学童の子どもたちがあびっ子に遊びに来ることはだいぶ減りました。今は、毎日の外遊びの時間に学童の子とあびっ子の子が遊んでいる所をスタッフ全員で見守っています。全ての子どもたちをスタッフが一体となって見ることにより、これからの保育を発展させていけたらと思っています。2 月の季節のイベントとしてメインルームで豆まきをしました。豆まきの後、外で鬼の隠した宝物を探すというゲームをみんなで行いました。また、23 日火曜日に、「英語で遊ぼう」というチャレンジタイムのために、運営会社であるアンフィニから講師の方がいらっしゃいました。この日はあびっ子と学童合わせて 16 名の児童が参加しました。みんなで体を動かし、遊びながら英語に親しむことが出来ました。

これまで二回生け花を実施しました。あびっ子のメインルームや学童の部屋の中に飾る作品をみんなで作って、それをお迎えの保護者の方に見ていただき好評でした。生け花の講師の方から、「日本の伝統文化の一つである生け花を通

して季節を感じ、行事の意味を味わう。お花や草や木を互いに生かしていく生け花で、表現する楽しさを育てる。生き物である植物の扱いや、世話を通して、命あるものへの思いやりを育てる。あびっ子のチャレンジタイムを通してこんな思いを子ども達に伝えることが出来てうれしく思います。」というお言葉を頂いています。これからもそんな地域の方や講師の方と協力していきたいと思えます。以上です。

(委員長) ありがとうございます。ただ今の報告で何か質問ございますか。よろしいでしょうか。

続きまして、湖北台西小学校の運営についてお願いします。

(4) 湖北台西小学校の運営について

(事務局) 前回、報告しましたNPO団体による絵本作りが完成しましたので、発表をさせていただきます。昨年10月から土曜日、9回に実施してきました。地域の皆様にもお披露目しました。子どもたちにとっても自信につながったと思います。ボランティアとして携わってくれたのが、ちょうど東小あびっ子クラブのコーディネーターだったため、この後発表して頂きます。資料として、朝日新聞が取材に来て取り上げてくれた記事をお配りしていますので、ご覧ください。

(事務局) たまたま私が新聞には写っているだけで、他に活躍した人がたくさんいます。主役の子どもたちの絵を見ていただきたいと思えます。【実際に子どもたちが描いた絵を披露】こんなに大きな絵を描くという体験は子どもたちも初めてだったのですが、それが本になったということで子どもたちにとっては大きな自信につながったと思えます。他の場面では評価を得にくい子であったり、運動や勉強が特段得意なわけではなかったり、行き場をあびっ子クラブに求めているような子どもであったりと様々な子たちがいます。その子たちが、「絵なんか嫌い、描けない」と言いながらこれだけの作品が出来て本になったことは、とても達成感のある体験になったと思えます。今回取材にも来ていただいて、周りも評価してくれることで、子どもたちは後からじわじわ感激しているのではないかと思えます。出来上がった時は、「出来た」というだけでしたが、応援に来てくれた大人たちが、「いいかい、大人になっても本を作ったことを覚えておくのだよ」とおっしゃっていたことが印象的でした。

(委員長) ありがとうございます。絵本については、皆さんに回覧させていただいていますが、今の報告で何か質問ございますか。

(委員) 私も見に行きましたが、迫力がありません。また、これから英語化もされるということで聞いています。

(事務局) この後絵本を英文に直して、それを世界に発信することになっています。そのため、最後の日は西小の子どもたちは英語の手ほどきも受け、ディアフレンドという紹介文を書きました。英語に直すのは川村学園女子大学の学生さんたちに手伝って頂き、現在作業中です。スロバキア、フィンランド、イギリス、エストニアの4カ国に送る予定です。

(事務局) 今日、みなさまにご覧いただいている絵本は、子どもたちにあげるために作ったものなので、今後、きちんと製本したものを、皆さまのお手元に届けられると思います。

(委員長) ありがとうございます。ご意見ご感想等ございますか。

続きまして、2番目の放課後対策事業の進捗状況についてです。(1)のスタッフ研修の報告について事務局からお願いします。

2. 放課後対策事業の進捗状況について

(1) スタッフ研修の報告について

(事務局) 昨年の11月、野田市と八千代市の放課後子ども教室の運営を見学させていただく機会がありました。事業開始について、我孫子市は平成19年度、野田市はその5年前の平成14年度、八千代市は平成23年度から始まっています。

放課後子ども教室の名称は、我孫子市が「あびっ子クラブ」、野田市が「オーブンサタデークラブ」、八千代市が「こすもす」となっています。野田市は名称のとおり、土曜日のみの運営となっています。子ども教室の設置数は、我孫子市が、小学校13校のうち10校、野田市が小学校22校と中学校11校のうち26校、八千代市では、小学校22校のうち未だ3校にしか設置出来ておらず、これから増やしていくという話でした。

開室日と開室時間は、我孫子市が日曜と祝日以外はほぼ毎日開室しています。時間は平日が放課後から17時まで、長期休業中等が9時または10時から17時までです。野田市は第一と第三土曜のみで、月二回しか開室しておらず、時間も9時から11時とかなり限られた時間で実施しています。八千代市は週三日程度で、学校の給食がある日のみとかなり限定しての実施です。時間は放課後から16時45分と我孫子市よりも少し短い時間で運営しています。対象児童は、我孫子市と八千代市が小学生のみ、野田市が中学生まで範囲を広げて受け入れています。

運営スタッフ体制は、我孫子市は市非常勤一般職員、臨時職員を配置し、サポーター(市民スタッフ)、ボランティアの方にご協力いただいています。野田市は、市内青少年健全育成団体及び地域の方々や管理人を配置しています。特徴としては、地域の方々への謝礼が地域振興券で一日2,000円お支払いしていることです。主に市内青少年健全育成団体と地域の方々先生となり講座を開

設しており、それぞれ 26 会場に管理人を 1~2 人配置し、当日の電話や子どもたちの忘れものの対応、外部の方が来た際の対応等をされているそうです。管理人は市の職員のOBの方や、シルバー人材育成センターの方、老人会の方がなっており、日給は 3,000 円とのことでした。八千代市は、市再任用職員、教育活動サポーターを配置し、有償ボランティアの方にもお手伝い頂いているとのことでした。

活動内容は、我孫子市と八千代市が自由遊びと、地域の方が実施して下さるイベントとなっています。野田市は、26 会場で今年度 34 講座を実施しているそうです。日本の文化を学ぶ講座やスポーツ系も実施しているということでした。子どもたちは一年を通じて 1 つの講座に参加するそうです。視察した 11 月はアート教室が開催されていました。講師は野田市で彫刻の先生をしている方で、当日は色の三原色を用いて落ち葉を描こうという水彩画を描いていました。八千代市の風景を作品にしていくというテーマで、月に 2 回ほど来ていただき、継続して一つの作品を作り上げていく講座でした。

26 会場どこでも自由に参加できるため、保護者の送迎は必須ということでした。しかし、実際に送迎しているかの細かい管理はしておらず、子どもがひとりで来てしまっても対応はしているということでした。

申込み方法は、いずれの市も学校で申請書の配布・回収をしており、随時の申込みも可能となっています。参加費は、我孫子市が年額 500 円の登録料に、特別支援プログラム材料費が発生した場合その都度お金を徴収しています。特別プログラム材料費を別途徴収することは三市共通ですが、野田市では、材料費以外は市が負担しており、八千代市では、我孫子市と同じように保険料相当額として年 800 円徴収しているということでした。

学童保育室との関わりについては、我孫子市だけが学童保育との一体的運営をしており、野田市・八千代市とも学童保育とは関わりがないということでした。最後に特徴と課題についてです。我孫子市ではイベントや外遊び等を通じて他の学年の子と遊べること、低学年は参加カードに保護者からハンコを押してもらって参加する形をとっており、ハンコが無い場合には保護者に連絡をとって確認し、きちんと管理をしているということが特徴です。課題は学習・宿題の対応です。現状は宿題を「教える」というよりは「見る」ということを中心としています。低学年の宿題に音読というものがあるのですが、1対1で対応しなくてはいけないため、全員聞くことは難しいです。今後どのように対応するかは、地域の方々にご協力いただく等検討し、よりよいあびっ子クラブを実現していきたいと考えています。次に、子どものチャレンジタイムへの参加を促す対応についても課題です。チャレンジタイムはたくさんの種類があり、興味をもつ内容も子どもによって様々です。スタッフとしては、地域の方々がかつて実施して下さる中、どうやってより多くの子どもの興味を持ってもらい、参加者を増やせるかということ、日々考えています。また、サポーターの高齢化、学生や保護者サポーターの不足があります。サポーターの高齢化は野田市においても課題となっています。高齢化が進むと同時に、後継者がいな

いという状況の中、活動を継続させていくことが難しくなります。我孫子市でも、今後は若い学生さんも積極的に巻き込んで、子どもたちにものを教える喜びを感じてもらいながら、地域の交流を促進していけたらと考えています。以前は積極的に参加して下さっていた保護者の方が、近年共働きなどの影響で参加率が低くなっています。学生さん同様、保護者の方々にも声かけを行い、積極的に参加して頂ける雰囲気づくりをしていきたいと考えています。野田市の特徴としては、月謝を払わないと習えないようなことが経験可能という点です。特にお金がかかるのは材料費くらいで、月二回習いごとの様な形で受講することができ、子ども達からも好きな友だちと受講できる、保護者の方からも費用面が安価で良いと好評とのこと。また、受講した子どもたちが活動に精通してくると、指導の補助ができるようになったり、もっと上達したい子は団体に正式加入したりすることがあるということでした。特にスポーツ系の活動については、何度も受講しているうちに上達も早く、先生のお手伝いをしながら下の子たちにも教えるという子がいると伺いました。課題としては、まず、中学生の参加が少ないことです。中学生まで参加出来ることにはなっていますが、部活や塾でいけない中学生が多いそうです。

また、保護者の都合優先で子どもが興味の無い講座に申し込んでいる方もいるようで、子どもにとってはつまらなく、講座の雰囲気を壊してしまうような行動をする子どもがいて困っているという話もありました。八千代市の特徴としては、週に三日間しか活動していないという背景もあり、毎月「こすもす通信」を登録児童の保護者に発送し、開室日やイベント情報を提供しているそうです。課題としては、教室の数がまだまだ足りないことです。これから増やしていきたいそうです。

八千代市では教室の後ろにスーパーの買い物かごを設置し、荷物が散らからないようにする工夫がなされていました。我孫子市ですぐに取り入れるということではありませんが、アイデアとして提示させていただきます。以上です。

(委員長) ありがとうございます。放課後子ども教室に関して、各市いろいろなことをやっていることがわかりました。なかなか他の所の様子を見るということは少ないので、参考になったかと思います。報告で何か質問等ございますか。

(委員) 我孫子市はいろいろな事が順調に進んでいるのでありがたいと思っています。初めに心配していた学童とあびっ子の連携もとても良い感じだと伺っています。野田市や八千代市の放課後子ども教室は学童保育との関わりなく、我孫子市とは形態も異なりますが、それぞれの良さを足しながらやっていくと素晴らしいと思います。

(委員長) ありがとうございます。他にございますか。

(委員) 野田市と八千代市は習いごとに近いと思います。我孫子市はサポーターや先生

と距離が近く、子どもたちがあびっ子クラブに自主的に行く感じですが、野田市は「習いごとに行ってきたさい」という感じで、親の都合で子どもに参加させている場合もあるため、子どもたちの中には不本意で通っている子供がいることが想像できました。

(委員長) ありがとうございます。我孫子市も他市の参考に出来るところは参考にしていきたいと思います。

続きまして、療育・教育システム連絡会における検討報告について、事務局の方からお願いします。

(2) 療育・教育システム連絡会における検討報告

(事務局) 課題に入る前に、先ほど高野山小コーディネーターから爆破予告という発言があり、皆さん心配されていることかと思しますので、報告させていただきます。22日と24日、市内公共施設に対して爆破予告がありました。その際、学童保育室については、働いている保護者の児童をお預かりする施設ということで、開室しました。但し、爆破予告時刻の前後合わせて30分は校庭に避難という形をとりました。私が巡回した我孫子第四小学校では、先生方にご協力いただき、下校後の学童の子どもたちの安全確保を一緒に対応していただきました。学校関係者、教育関係者の委員の皆さま、本当にありがとうございました。子どもたちはなぜ避難しているかも理解しておらず、賑やかな様子でしたが、スタッフと先生方のおかげで、非常に寒い中、安全に対応がとれましたこと、ご報告させていただきます。

では、議題の方に入ります。「療育・教育システム連絡会」(以下「連絡会」という。)という会議が我孫子市に設置されています。教育関係者と、我孫子市の特徴である子どもに特化した子ども部の二部門に加え、県立特別支援学校関係者等、様々な部署により構成されています。乳幼時期から就学、卒業から就労と0歳から18歳まで総合的に子どもを支援していくことを目的に、ネットワークづくりをするための連絡会となっています。事務局は教育研究所とこども発達センターです。子ども支援課も参加させていただいているのですが、今年度新たな議題として提議させていただきました。現在、学童保育に通っている子ども達の中には、グレーゾーンの子どものも含めて、発達やコミュニケーション、又は家庭の事情によって、私たち大人が支援をしていかななくてはならない子どもたちが非常に増えています。障害というくくりではなくても、子どもたちが健やかに成長するために、大人のサポートが必要な子どもたちがたくさんいます。学校では支援学級もあり、支援員の先生が配置される等、充実した体制がとられています。学校の授業が終わり放課後になると、子どもたちの自由度が増します。そうすると子どもたちの発達の特性が良く見えてきます。その子どもたちを学童だけ、あびっ子だけでサポートしていくことは非常に難しいことです。ご家庭や学校関係者の方たち、こども発達センター等、関係機関

の方たちとより連携していかななくてはいけないということを課題として提議しました。この内容を受け、「連絡会」でも、保育園、幼稚園、小学校と現場の先生からも、節目の支援は課題であるとの意見が出されました。今、一番課題となっているのが、例えば幼稚園保育園から小学校に上がる時、小学校から中学校に上がる時、また中学校から高校へ、高校から就労へと、節目の情報共有及び支援がまだまだ足りていないことがわかってきました。しかし、「連絡会」のメンバーが、各課の課長さん等となっているため、より具体的な内容を検討して、さらに発展させていくために、実務担当者による部会を設置し、より現場の課題を吸い上げ、具体的な対応策をとりまとめ「療育・教育システム連絡会」へ提言をしていくという形を目指して今動いています。学校の中にある学童とあびっ子クラブも子どもたちの発達においては非常に重要な役割を担っています。子ども支援課も部会メンバーとして子どもたちの成長の節目をどう乗り越えていくのかを検討していきます。部会及び「連絡会」での検討内容については、継続して本運営委員会において随時報告させていただきますので、皆さまの意見をいただけますよう宜しくお願いします。以上です。

(委員長) ありがとうございます。幼稚園、保育園から小学校にあがるお子さんや、その中でもこども発達支援センター等に通っているお子さんが小学校に上がる時、情報の伝達がうまく出来ていないという現状があります。ひとつ大きな課題として、個人情報ということがあり、情報共有するためには保護者の同意が必要になってきます。どこまでの情報を学校へ伝達するのかということもあるため、いかに現場でフォローしていくかが大事になってきます。報告で何か質問ございますか。

(委員) 小学校で学級支援員をしているのですが、通常学級にも支援が必要な児童が沢山います。学習面や生活面、おそらく家庭面の支援など様々です。先日、保育園との交流があり、小学生と保育園児が学校の中の探検した際、保育園の先生とお話をする時間がありました。特別に時間を設けたというわけではなく、たまたまお話をしました。支援が必要な児童の話を伺いましたが、立ち話では話せる内容に限界があります。家庭からも支援が必要なのか聞かずに児童の状況を把握するのは限界があります。これからは、そういった情報をうまく把握できるような仕組みづくりが必要だと思います。

(事務局) ありがとうございます。「連絡会」には保育園の先生も参加されており、小学校への申し送りは書面が基本的ですが、小学校の先生ともっと会えれば、こういうことに気をつけてほしい等の、具体的なお話が出来るけれど、現状ではできていないという話がありました。数年前から、学童保育担当課では、年長さんを対象に保育園、幼稚園に見学に行っています。始めた理由は、学童保育入室に伴い、保護者にお子さんの状況を児童調査票に記入してもらうのですが、

正確にお子さんの状況を認識していただいていない保護者も多く、実際に保育をすると、支援の必要なお子さんだったというケースが非常に多くありました。そこで実際にお子さんの様子を見学し、担任の先生にお話を聞かせていただいています。保育園・幼稚園の先生からは、具体的なお子さんへの対応方法を聞くことで、スタッフもスムーズに対応することができます。対応方法を知らないで対応するのと、知って対応するのでは明らかな差があり、このような詳細なことも「連絡会」では意見として出ていますので、現場としてどうしていくか検討していきます。

(委員長) 他に質問等ございますか。

(委員) これからの流れでいくと、特別支援学級になるかならないか別にして、全ての保護者が自分の子どもに対する「サポートファイル」を作って、継ぎ目の時に自分で子どもの情報管理をし、相手機関に提出していくという流れになっていかなければいけなく、そういう教育ややり方が今後普及していくのだと思います。とはいえ、今普及していない段階では困った現状だと思いますので、相談できる環境や連絡がうまくできる環境が必要だと思います。そのために、学級支援員に対しては研修等があり、自分の学びを深めるチャンスがあるかと思えます。我孫子市のあびっ子や学童には、困った時に相談が出来る巡回システムがあるのは良い取り組みだと思います。しかし、サポーターや地域の方々が子どもの対応で結構困っていることがあります。今、どういうお子さんが世の中にいるのかなど、勉強するチャンスは無いです。学級支援員やスタッフは勉強する機会はあるけど、他の方も勉強するチャンスがあれば、あびっ子に参加する意義がより感じられるのではないかと思います。

(委員長) ありがとうございます。その点、教育委員会ではどのように考えていますか。

(委員) 先日、学校地域支援本部会議の際、学校支援コーディネーター等対象の研修に、あびっ子クラブのスタッフも参加できるものがあれば参加してもいいかという質問があり、今後は一緒にやってきましょうとお返事をしました。

(委員) 実際、一番困っているのは子どもだと思います。そういう子どもたちは困っていることを目で訴えます。自分が何に困っているかということを経験で表現することが苦手な子どもたちが多いため、目で訴えているのをキャッチするくらいしかできないのですが、そういったことをサポーターの方々がキャッチできるようになれば、子どもたちも助かるのではないのでしょうか。

(事務局) 皆様のご意見を聞いて、個人的な見解ではありますが、スタッフを対象に、今年度も2月に実施したのですが、こども発達センターの職員に来てもらい、発達障害に関わる研修を行いました。今年うちのスタッフもかなり新しい職

員が多かったので、初歩的な内容でしたが、来年度はその子どもの対応についての研修を計画しています。サポーターで研修に参加したい方がいれば参加して頂くこともできるかと考えました。研修会場として湖北地区公民館のホールをお借りしているため、収容人数にも余裕がありますので、もし勉強したい方聞きたい方がいれば、そこに参加して頂くことは十分可能かと思いました。なので、来年度に向けて考えていきたいと思えます。

(委員長) ありがとうございます。ご意見ご感想等ございますか。よろしいですか。それでは (3)、小学校の放課後支援についてお願いします。

(2) 小学生の放課後支援について

(事務局) はい、それでは私のほうから説明させていただきます。

平成 24 年 4 月から障害をお持ちのお子さんを対象に、放課後や夏休みなどに通えるサービスとして「放課後等デイサービス事業」がスタートしています。我孫子市においても、民間の事業所さんがすでに 10 カ所以上あります。お隣の柏市では手帳を持っている、また、「特別支援学校」に通っているお子さんしか使えないというルールがあるのですが、我孫子市においては「特別支援学級」に在籍をしている、または手帳を持っている方が利用出来るということになっています。子どもの放課後という点では、保護者の中でも、保育園、幼稚園を卒園して保護者が考える小学生の放課後を支援する場合は学童が一般的です。そこに新たに「放課後等デイサービス事業」というものが広がりつつあります。保育園もこの四月に台田に新しい施設ができます。

保育の需要が非常に増えている中、幼稚園の預かり保育を利用している方たちとともに小学校になるとみんなが学童保育を利用するため、学童保育需要も増加しています。来年度の学童保育の入室状況を見ても、決して湖北や布佐地区が少ないということはありません。若干児童の比率によって人数の多少はありますが、大半の学童保育室が満杯状態です。このように、満杯の学童保育室で特別に支援が必要な子たちをみんなと一緒に十分な保育ができるのかどうかということはこれまでも課題でした。皆さん学童保育室というのを見たことがあるかわかりませんが、とても賑やかです。学童は子どもたちが学校から帰ってきて解放され、自由にやりたいことをやる場所なので、正直歯止めのかからない子たちがたくさんいます。そういった中で支援が必要な子どもたちがはたして自分の居場所を見つけることができるのかということについて、子ども部門で検討してきました。そういったなかで、まだまだ「放課後等デイサービス事業」というものが親御さんたちに知られていないということが、昨年子ども総合計画を策定している中で浮き彫りになってきました。特別支援学級の親御さんですら知らない方が多く、これから学校に上がる方はもちろん知らないということがわかりました。そこで、今年度から、11 月から 1 月にかけて、学童を希望されている方の中で、こども発達センターに通っていて、支援学級に進む

お子さんについては、子ども支援課とこども発達センターのケースワーカーが協力して、親御さんと面談をさせていただき、小学校に上がるとお子さんの放課後はこんな風になること、学童以外にも放課後デイサービスというサービスがあることを伝えるとともに、お子さんの特徴を踏まえるとどちらを選択した方がいいのか、また、併用した方がいいのかということをお子さんと一緒に考えていくという取り組みを始めました。今年度、10人以上の方と面談を実施させていただきましたが、その8割近くの方が「放課後デイサービス」の単語自体知らないという状況でした。このような状況はこれからも続くことが予想されます。既に夏休みに学童か放課後デイサービスを利用するか相談のあるご家庭もありますので、引き続きこども発達センターと協力してその子にとってより良い放課後の居場所を見つけられるような取り組みをしていきます。ご報告とさせていただきます。

(委員長) ありがとうございます。一番いい居場所が見つけれたらいいと思います。ただ今の報告で、何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか。

(委員) こういう席に障害を持っていらっしゃる方の親御さんなどがいらっしゃらないのですね。私たち2人が委員としているより、そういう方がいらっしゃる方がより理解が深まると思います。

(事務局) 特別支援学校はお子さんに放課後デイサービスが必要なので、皆さん情報は持っています。特別支援学級に通うお家庭が、知らないということです。

(委員) 組織自体が無いということですね。

(事務局) そうです。普通学級にしようか特別支援学級にしようかぎりぎりまで悩む親御さんが沢山いらっしゃいます。そういったなかで、選択肢として知らない方がたくさんいるので、地道にきちんと説明しなくてはいけないと思います。学童も親御さんにとって良いことばかりではないと思います。単に預けるだけでなく、特に役員さん等もあり、親御さんの負担もあるので、きちんと事実を説明したうえで選んでいただくことが大切だと思います。放課後デイサービスでは送迎をしてもらえるとということがあるので、仕事でお迎えがままならないという方にとってはメリットがあると思います。その家庭がどのサービスを利用することが一番いいのかというのは、個々の家庭によって違います。まだ、広報活動が市として足りないと思いますので、療育・教育システム連絡会の部会において、これからどのように周知していくのか検討していきたいと思っています。

(委員長) 他にご意見等ございますか。

(委員) 少し今の報告で補足させて下さい。放課後デイサービスを利用するための相談

支援事業所は、こども発達センターと、子ども相談課にあります。基本的にこども発達センターを利用しているお子さんはメインでこども発達センターの事業所、子ども発達センターを利用していないお子さんは子ども相談課の事業所で対応を取ることになっています。私が子ども支援課にいたころも含めて、親の会などには、利用して下さいという説明には行っていません。親の会は限られていますので、事業所にお願ひすれば、直接説明に行くと思います。ただ、対応する事業所がまだまだ足りないというのが現状です。我孫子市民の方も、柏や印西等、どこの事業所を使ってもいいことになっています。しかし、それも事業所を拡大しないと、利用したくても利用できないということになります。そのため今後は、子ども支援課もこども発達センターも事業所を発掘することが必要だと思います。我孫子市も徐々に事業所は増えていますが、やはり需要と供給で、利用したい子どもがいても利用できる事業所が足りないと思います。私が子ども支援課にいたのは一年程前なので、状況は変わっているかもしれませんが、事業所を拡大するために職員はがんばっていたということを記憶しています。ただ、利用要件も0円から4500円と細かい要件となっており、もちろん4500円以上の方もいらっしゃいますが、子どもを学校に迎えにいった事業所まで連れてきてくれたり、帰りも自宅近くまで送ってくれたりとサービスも良いです。料金はかかりますが、子ども部もがんばって事業所を発掘してくれているのだと思いました。

(委員長) ありがとうございます。他に何かございますか。よろしいですか。

それでは次の議題、一小あびっ子クラブの活動の様子を収めたDVDの上映に移ります。

それに先立ちまして、携わった委員から説明をお願いします。

3. 一小あびっ子クラブにおけるDVD発表について

(委員) 私たちは地域の大学として委員等で携わりながらも、大学として調査研究などに携わっております。先ほど地域の比較が出ましたが、子ども達も変化していきますので、私たちは京都やアメリカ、小学校だけでなく、中学、高校、大学ともう少し研究の範囲を広げて行っています。今日はそのご報告をさせていただきます。まずは小学校だけではない研究についてご紹介したいと思います。

(委員) 我孫子市には放課後の居場所や放課後の生活ということについてあびっ子クラブや学童がありますが、実は広く見ていくと中学生高校生の放課後も注目を浴びています。例えば今は携帯電話が普及していて、お子さんが自宅に帰った時に友だちがいなくて携帯ゲームばかりやっています。コミュニケーションを求めて危ないサイトに手を出し、そういったことからトラブルに発展します。携帯電話の使用方法について議論が交わされており、私自身この委員会とは別にいじめの防止委員会にも参加していますが、そこでも携帯電話の使い方がトラ

ブルを引き起こしていじめが発生することがあるため、取り扱い方が注目されています。そのような事を考えていく上で、放課後をどのように運営していけばいいかを考えなくてはなりません。高校生大学生になるとお金欲しさにアルバイトをするようになって、あまり勉強など自分が成長するための時間を持たず、時間が余ったからアルバイトしようという子どもが増えているなど職業意識が変化しています。このような状況で小学生から大学生までを対象に研究、発表を行っています。今回は京都やアメリカも対象に研究を行いましたので、発表させていただきます。本日、この研究を行っている先生方がお書きになった「放課後子どもの生活に関する比較研究」として、京都の活動と、アメリカに視察に行った時のことをまとめた資料を配布させていただきました。また、こういった研究は毎年心理学や教育の学会等で発表しております。我々は地域の大学として、地域と連携しながら、小中高大と成長していく中で、小学校から中学校に上がる時に、どのような発達をするのかなどの研究をこれからも検討していければと思います。

(委員) 小中高大と縦の時間系列もありますし、京都やアメリカなども含めた横の研究もやっています。いろんな地域で子どもの育ちは課題があります。京都は児童館が沢山あり、学童保育はNPOが中心で運営しています。コミュニティスクールなど地域が入っている所では、放課後子供教室は学習に特化した取り組みを行っています。放課後のあり方は地域ごとに個性があり、その中の一つに我孫子のような放課後対策もあって、今後のあり方が定まっていくのだなと感じました。最後の総合考察を読んでいただければ概要はわかるのですが、この研究で終わりということではなく、これからも変化する環境を対象に研究を続けていきます。今回のDVDは、どうすれば地域の方々と子育てをしていけるかという課題に対して、私たちが相手にしている大学生が、みんな「You Tube」などの動画を良く見るように、お母さん方が子どもの放課後の居場所を選ぶ時も、やはり写真や言葉だけでなく、ビジュアルで説明しないといけないと思いました。京都やアメリカに行った際も動画で見せた方が説明が早かったです。今回はシルバー人材センターの動画に詳しい方をお願いして作成しました。モデル校の一小あびっ子クラブでは、サポーターさんたちもかなりなじんでおり、サポーター会議の中で、お子さんたちに無理に何かに参加させるということはないので、「チャレンジ祭り」というものを作って、チャレンジの内容紹介を祭りにしたてて子ども達に紹介し、子どもたちがいいなと思ったら参加してもらおうという形を取っています。是非このように工夫している取り組みを発信していけたらと思っています。動画は短いものですが、親御さんや地域のサポーター希望の方に見ていただく資料として活用頂ければと思います。先ほどの絵本の事例も素晴らしいですね。演劇ワークショップなど、うちの大学生がやっていた通常活動等も活用頂ければと思います。

(委員長) ありがとうございます。一小のコーディネーターから何か補足等ございますか。

(委員) ありがとうございます。DVDに映っているのは特殊な日の撮影ですが、日常的にチャレンジタイムがある日も無い日もあり、もっとのんびりと過ごしている施設ではあるのですが、たまたまチャレンジ祭りの日があつて、いろいろなチャレンジを実施して下さっている所に、子どもたちが自由に参加しているという様子を見ていただけたらと思います。

(委員長) ありがとうございます。それでは準備をしていますので、しばらくお待ちください。

【DVD上映】

4. 来年度の運営委員会について

(委員長) 一小の取り組みをご覧いただきました。ご覧頂いたなかでご意見等ございますか。よろしいですか。

それでは、来年度の運営委員会についてです。年4回行う予定でいます。5月、8月、12月、2月と議会前の月を目途に実施していく予定です。時間は午前中です。団体から選出されている方は引き継ぎ及び人選をお願いします。

これで第四回放課後対策事業運営委員会を終了しますが、その前に、我孫子の放課後子供教室の立ち上げからご尽力いただきました一小コーディネーターが、残念ながら定年退職ということで、最後に一言ご挨拶頂きたいと思います。あびっ子クラブの形を作っていたいただいた方なので、非常に感謝しております。では、お願いします。

(委員) 想いがあふれてちゃんとお話できるか不安です。9年間楽しく過ごさせていただきました。最初の立ち上げの2年間はもう夢中で取り組みました。その2年間の楽しさが原動力となり、ここまでやってきました。今見ていただいたようにたくさんの方々のサポーターの方々、スタッフに支えられてきました。子どもたちが帰る時にくれる「すごく楽しかったよ」という言葉が私にとって最高のご褒美です。わずかな時間でも我を忘れて遊べる場所、ホッとできる場所や時間を提供したいと思ってここまでやってきました。あびっ子クラブがここまで大きくなって、子どもたちが豊かな放課後を過ごせるようになり、大変嬉しいです。ありがとうございました。

(委員長) ありがとうございました。お疲れ様でした。

それではこれで放課後対策事業運営委員会を閉会します。どうもありがとうございました。

【閉会】